

平成29年度 上市高等学校アクションプラン - 1 -

① 重点項目	学習活動
② 重点課題	教科指導の充実
③ 現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業検討会を適宜実施して、生活実態調査結果の分析などを通して、生徒理解を深めるとともに、教科の指導法や評価法等を検討している。</li> <li>・各教科で学習指導法や評価の仕方等を記載したシラバスを生徒に配布している。しかし、生徒は分野・科目選択の資料として利用しているが、学習の指針として、十分に活用するに至っていない。</li> </ul>
④ 達成目標	<p>積極的に互見授業を行い、授業改善の充実を図る。</p> <p>1学期と2学期に互見授業期間（2週間）を設定し、各学期1人2回以上の互見授業を行う。その後各教科で授業検討会を実施し研修する。</p>
⑤ 方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導力の改善を目指す授業検討会を開き、効果的な指導法や生徒の学習成果を測る評価法を検討する。（継続）</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」いわゆるアクティブ・ラーニングの視点から授業改善を充実させる。</li> <li>・教科指導はシラバスに基づき実施する。その際に、授業と家庭学習（課題や宿題の質と量に配慮）の内容を明確に位置づける。</li> <li>・授業に対する生徒アンケートを分析して、教科指導法の工夫に役立てる。</li> </ul>
⑥ 達成度	概ね良好である。
⑦ 具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の互見授業実施回数 1学期 国語 6 地歴公民 2 数学 19 理科 4 保体 2 芸術 7 英語 4 家庭 5 農業 1 商業 6 計 56回 2学期 国語 2 地歴公民 0 数学 6 理科 2 保体 0 芸術 5 英語 2 家庭 5 農業 1 商業 2 計 25回</li> <li>・検討された内容 全教科共通：年間指導計画、授業進捗の確認、シラバス、分野選択の問題点 次年度の教科書採択、H30年度教育課程の検討 学校設定科目の設置、<b>互見授業（アクティブ・ラーニング）について</b> 個別教科：主権者教育について（地歴・公民）、数学検定を利用した指導法（数学） 「生活理科」の学習内容、指導形態について（理科）、 発達障害のある生徒の授業内容と評価（保体） 英検を利用した指導法（英語） 授業2時間続きについて（農業） 資格取得の取組み・検定結果の分析（家庭、農業、商業）</li> <li>・初任者研究授業および事後研修の実施（国語 H30 1/17・数学 H30 1/18）</li> </ul>
⑧ 評 価	B
⑨ 学校評議員の意見	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 互見授業を通して、先生方の個性や得意なところを伸ばす議論をして欲しい。</li> <li>② 中、長期的な目標を聞きたい。ALによって上市高校が目指すところは何なのか。</li> <li>③ 課題研究のプレゼンの姿は自分を表現する機会となる。真剣に取り組み、これからも課題に関わりを持ちたいという言葉が印象に残った。</li> <li>④ 教員の異校種間交流（視察）を行うことが必要である。小・中学校の参観を行い発達段階に応じた取り組みを知ることができる。中学でどう支え、育てているのか実態を知ってもらいたい。</li> </ol>
⑩ 次年度以降に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に基づき、本校の教育目標、生徒の実態等を踏まえて、教育課程がより有効なものとなるように検討を行い、取り組む。</li> <li>・授業検討会の充実を図る。具体的には、基礎学力の定着を図る方策や互見授業等による指導法の研究を進める。ICT機器の活用技法も積極的に習得を広めていく。</li> <li>・学習生活実態調査の分析や教員間の情報交換を通して生徒理解を深め、指導に生かしていく。</li> <li>・生徒に達成感を与え、かつ適切な評価につながる課題を工夫する。</li> <li>・家庭学習の時間を確保し、課題を指定された期日までに提出する習慣をつけさせる。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した）